



死生学研究所 〈公開〉 生と死とその後Ⅱ

□会場 東洋英和女学院大学大学院 (六本木) 201 教室 □最寄駅 六本木駅 (日比谷線徒歩10分) □参加費 各回 500 円
東京都港区六本木 5-14-40 □先着 100 名様 □事前申込み 不要

第7回 連続講座

12月8日 (土)
14:40-16:10 (受付 14:00 から)

■プロフィール

University of Kent at Canterbury 卒業 (英国)。富士総合研究所 (現みずほ情報総研) に入社して公的委託研究調査に従事。1996年、日本愛育総合研究所 (現日本子ども家庭総合研究所) に移り、厚生省児童家庭局関係の調査研究を行う。2001年、淑徳大学社会学部専任講師を経て准教授。2008年より現職。専門は児童福祉政策。

■主要業績

著書 (共著) に『新しい子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房、『子ども家庭福祉論』放送大学教育振興会、『新時代の保育サービス』フレール館、『地方自治体の保育への取り組み』フレール館、『三鷹市の子ども家庭ネットワーク』ミネルヴァ書房など。

山本真実 (やまもと まみ)

本学人間科学部
准教授

被虐待児と環境 — 養護原理の視点から

内容紹介

現在、我が国には約 5 万人弱の社会的養護ケアを受けている子どもたちがいます。社会的養護ケアとは、児童福祉施設や里親家庭での養育を意味します。その子どもたちの多くは、親からの虐待や不適切な養育環境での暮らしを経てきた子どもたちです。虐待を受けた経験のあるお子さんを被虐待児と言いますが、彼らは生まれながらにして全ての子どもたちに保障されていない大切なものを失い、傷つけられ、権利を侵害されている存在です。彼らが失ったものの大きさ、深刻さを少しでも取り戻すことが出来るような社会の仕組み (子どもたちの心を支える仕組み、社会の理解) とはどうかあるべきかを考えていきたいと思います。

第8回 連続講座

12月8日 (土)
16:20-17:50

■プロフィール

1981年、筑波大学大学院博士課程心身障害学専攻修了。埼玉県障害者リハビリテーションセンターに勤務。1987年、横浜市総合リハビリテーションセンターに移り、障害者の就労や福祉サービスの相談を担当。1991年、関東学院大学文学部助教授、1997年より東洋英和女学院大学人間科学部助教授、1999年より現職。専門は障害者福祉論、人権論。

■主要業績

『Q & A 障害者問題の基礎知識』明石書店、『社会生活力プログラム・マニュアル』 (共編著) 中央法規、『当事者主体』の視点に立つソーシャルワーク はじめて学ぶ障害者福祉』 (編著) みらい、『新版 介護福祉士養成講座 障害の理解』 (共編著) 中央法規ほか。

石渡和実 (いしわた かずみ)

本学人間科学部
教授

障害がある命と優生思想

内容紹介

重い障害をもって生きる人々は、成人しても仕事に就くことができず、家族や施設職員に生活全般にわたる支援を求めることになります。したがって、家族にも社会にも負担をかけることになり、「社会のお荷物」「迷惑な存在」などと言われてきました。「重い障害をもって生きるのは本人にとっても不幸」という考えは、今も根強く残っています。親子心中が絶えることなく、出生前診断の技術が向上した現在では「中絶」され、この世に生を受けることさえできない現実があります。「生きるに値しない命」…。重い障害がある人は、ずっとこう言い続けられてきました。ナチスドイツに始まる優生思想です。こうした歴史と現状を、障害がある人の視点を踏まえて考えてみたいと思います。

< 予告 > 2013年1月19日 (土曜日)

14:40-16:10 第9回連続講座 古川のり子 (本学国際社会学部教授)
姥皮の少女とタニシ息子の物語 — 『ハウルの動く城』
16:20-17:50 第10回連続講座 奥山礼子 (本学国際社会学部教授)
ヴァージニア・ウルフの死生観 — 人生と作品から

[お問合せ先]

東洋英和女学院大学死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp
03-3583-4035 (fax 専用)